

山形県教育委員協議会の概要

1 日 時

令和8年8月28日（金）14時58分～15時38分

2 場 所

山形県庁舎教育委員室

3 意見交換テーマ

確かな学力の育成について

4 主な発言要旨

- ◇ 令和8年全国学力・学習状況調査結果では、中学校数学で11問以上正答した人数が全国と比べて少ない結果となった。数学は小学校の算数から積み重ねて学習していかないと理解が追いつかない科目であることから、特に学習習慣を身に着けることが重要だと感じる。（和田委員）
- ◇ 保護者から子どもへの声掛けなど、家庭での学習の充実には保護者の協力も欠かせないと思う。（和田委員）
- ◇ 得意な科目がある又は理解度が高い子どもには、もっと上のレベルにチャレンジして、得意なことを伸ばせるような環境づくりが重要と考える。学習の習熟度別のクラス分けにすれば、教職員も同じ理解度の子どもがそろっていて教えやすいと思う。（丹治委員）
- ◇ 子どもたちには、夢や目標への現在の到達点を知ってもらうことが大事である。現時点で不足している点を意識することで、家庭での主体的な学習や苦手なことの克服にもつながっていくと考える。（丹治委員）
- ◇ 令和8年全国学力・学習状況調査では、小学校において家庭の学習時間が全国平均よりも多いのにも関わらず、国語・算数ともに正答率が全国平均より悪かった。これは家庭学習の質が悪いということになってしまう。個々の授業のレベルをどうするかというより、全体的に成績を底上げするような対策が必要であると感じる。学力に対して一生懸命取り組んでいるのに、結果が出ないのであれば、思い切って視点を変えることも必要ではないか。（手塚委員）
- ◇ 他県の先進的な取組みを学ぶために、本県でも他県に教職員を派遣していたが、他県の取組みで効果的なものがあれば積極的に取り入れていくべきと考える。（小関委員）
- ◇ 全国的な傾向だが、小学生の4人に1人が立方体の体積を求められなかったという結果もあり、少し心配な状況である。難しいことよりも基礎的なことをしっかりと身に着けられるようにした方が効果的ではないかと考える。（小関委員）

- ◇ 首都圏と比べて、本県では、塾や家庭教師などで学習時間を確保している成績上位の子どもは少ないように感じる。学校では成績中位層のレベルに合わせた授業が行われることが多く、成績上位層の子どもたちはそれに引っ張られて、疲れを感じることがあると思う。成績上位層の子どもたちのモチベーションを上げるような仕組みが必要ではないか。(工藤委員)
- ◇ 家でスマートフォンやタブレット、ゲームばかりしてしまう子どもに対して、保護者が改善させられない状況も問題と感じる。学校での学習よりも家庭での学習環境を改善しなければいけないと思う。(工藤委員)